

## 苫小牧市役所エコオフィスの運用実績(平成 23 年度)

苫小牧市役所エコオフィスプラン（平成 23 年 4 月策定）に基づき、市役所全施設の事務・事業活動に伴う温室効果ガス排出量及びエネルギー使用量を公表します。  
温室効果ガス排出量は 58,147 t-CO<sub>2</sub> となり、基準年と比べると 0.9%増加しました。  
エネルギー使用量は 17,920kℓ(原油換算)となり、基準年度と比べると 1.7%増加しました。

### 要因別温室効果ガス排出量

温室効果ガス 排出量※ 排出区分	21年度(基準年)	23年度		26年度	
	t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	増減	t-CO <sub>2</sub>	増減
エネ起源 CO <sub>2</sub> ※	34,859	36,257	4.1%	-	-
市長部局	16,495	18,118	9.8%	-	-
教育委員会	14,574	14,638	0.4%	-	-
自動車使用	3,791	3,502	-7.6%	-	-
非エネ起源 CO <sub>2</sub> ※	22,771	21,889	-3.9%	-	-
合計	57,630	58,147	0.9%	47,544	-17.5%

※ 四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

※ エネ起源 CO<sub>2</sub> は市長部局・教育委員会・自動車使用の合計です。

※ 非エネ起源 CO<sub>2</sub> は廃棄物燃焼による排出量です。

### <エネ起源 CO<sub>2</sub>>

エネ起源 CO<sub>2</sub> の排出量は、市長部局・教育委員会・自動車使用の CO<sub>2</sub> 排出量の合計です。  
基準年度と比べて 4.1%増加しました。主な要因は以下の通りです。

### <市長部局・教育委員会>

市長部局及び教育委員会の CO<sub>2</sub> 排出量は、基準年度と比べてそれぞれ 9.8%、0.4%増加しました。主な要因として電気の CO<sub>2</sub> 排出原単位が 0.433kg-CO<sub>2</sub>/kWh（21 年度）から 0.485kg-CO<sub>2</sub>/kWh（23 年度）に増加したことが挙げられます。

### <自動車使用>

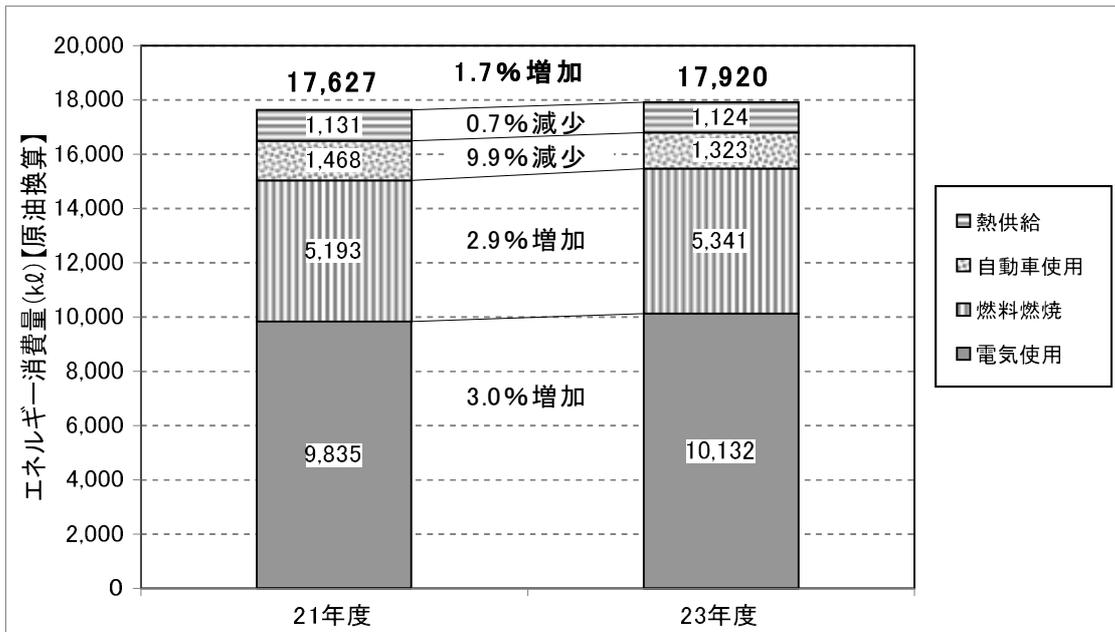
自動車使用の CO<sub>2</sub> 排出量は、基準年度と比べて 7.6%の減少しました。主な要因として、市営バスの民間委託により、バスの所有数が減少したことが挙げられます。

### <非エネ起源 CO<sub>2</sub>>

非エネ起源 CO<sub>2</sub> の排出量は市が収集した焼却ごみに含まれる廃プラスチック類の燃焼から発生します。

基準年度と比べて 3.9%減少しました。主な要因として、22 年度 4 月から開始したプラスチックの資源回収により、廃プラスチック類の焼却量が減少したことが挙げられます。

※CO<sub>2</sub> 排出量は「地球温暖化対策」上の「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」に基づき計算しています。なお、電気の CO<sub>2</sub> 排出原単位は 1 キロワット時の電気を発電したときの CO<sub>2</sub> 排出量であり、北海道電力㈱の値を使用しています。



エネルギー使用量の推移\*

※ 四捨五入の関係で合計と一致しない場合があります。

### <熱供給>

熱供給によるエネルギー使用量は、基準年度と比べて0.7%減少しました。

主な要因として、日新温水プールで細かな管理を行い、熱供給を受けた量の削減が出来たことが挙げられます。

### <自動車使用>

自動車使用によるエネルギー使用量は、基準年度と比べて9.9%減少しました。

主な要因として、市営バスの民間委託により、バスの所有数が減少したことが挙げられます。

### <燃料燃焼>

燃料燃焼によるエネルギー使用量は、基準年度と比べて2.9%増加しました。

主な要因として、糸井清掃センターでごみの減量等により、休炉日数が増加した結果、暖房等に使用する燃料使用量が増加したことが挙げられます。

### <電気使用>

電気使用によるエネルギー使用量は、基準年度と比べて3.0%増加しました。

主な要因として、ゲリラ豪雨の増加により下水処理センターの下水処理量が増加したことが挙げられます。